

あなたと私の関係性は？

夫・パートナーからの暴力、性犯罪、売買春、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為など、女性に対する暴力は、女性の人権を著しく侵害する行為です。暴力は、その対象の性別や加害者と被害者の間柄を問わず許されるものではありません。男女共同参画社会を実現していくために、女性に対する暴力の根絶が重要です。

あなたの家庭では大丈夫ですか？

夫婦げんかとDV(ドメスティック・バイオレンス)の境界線はどこにあるの？

■夫婦げんか

どんなに仲のいい夫婦でも、たまには本気でお互いの感情や気持ちをぶつけ合うこともあります。ただ、その後はお互いにわだかまりを残さずにすっきりとすればそれは健全な夫婦げんかと言えます。

■DVに発展してしまっている夫婦げんか

同じ夫婦げんかでも、夫(妻またはパートナー)が一方向的に怒鳴り続けたり、無視し続けたり、ものを壊したりすれば、簡単にすっきりできなくなります。[夫(妻)が怖い]という気持ちが、妻(夫)に残ってしまいます。そもそものけんかの原因が思い出せないくらい夫(妻)からの暴言や乱暴な行為が忘れられなくなり、[夫(妻)を怒らせないように一緒に過ごすにはどうしたらいいか。]と機嫌を伺うことに縛られ、おびえながら生活している状態の場合、DVと言えます。

「女性に対する暴力をなくす運動」週間関連事業のお知らせ

講演会「世界一幸せな国フィンランドから学ぶ ～他者を尊重し、自分らしく生きる～」

講師 坂根シルック氏

飯能市フィンランド協会主催、飯能市共催

フィンランドは、世界一幸せな国として注目されており、フィンランドから学べることは何か、その秘訣や社会的な仕組み、教育に至るまでをご講義いただき、多様性を尊重し、自分らしく生きるための考え方を学びます。

※日本語による講演です

開催方法 オンライン(申込者は後日見逃し配信視聴可)

日時 11月14日(日) 13:30～15:00

定員 130人(オンライン100人、ホール視聴30人)

※ホール視聴は、視聴する機器のない方を対象に市民活動センター多目的ホールを会場に実施します。

申し込み 11月12日(金)までに電子申請(原則)または
電話で地域活動支援課(Tel973-2626)へ
(申込順)



【講師プロフィール】

九州ルーテル学院大学人文学科准教授

1985年来日後、20年にわたり、フィンランド政府機関や複数の在日フィンランド企業に勤務。フィンランド語通訳・翻訳家、フィンランド語講師を経て、2019年春に熊本に移住、九州ルーテル学院大学でグローバル教育を担当。子育て・働き方・生き方・教育・ライフスタイルなど、フィンランドの社会文化をテーマに全国で講演を行っている。1男1女の母。



その他の関連事業

イベント	期間	内容等
パープルリボンキャンペーン	11/6(土)～3/16(水)	女性に対する暴力をなくすことを目的に、暴力根絶のシンボル“パープルリボン”を貼るタペストリーなどが、各地区行政センター、市内の県立高等学校を巡回します。誰も傷つけない暴力のない社会へ協力をお願いします。
DV防止週間展	11/12(金)～25(木)	会場 市民活動センター(丸広百貨店7階)
DVに関する書籍の紹介	10/30(土)～11/25(木)	会場 図書館
DV防止録画配信講座	令和4年1月配信予定 ※詳細は、11月上旬に飯能市ホームページでお知らせします。	テーマ 性被害から子どもを守るために 定員 100人(申込順) 申し込み 11/12(金)～12/22(水)に電子申請から

特集

性暴力を見過ごさないために、私たちにできること 令和2年～令和4年は「性犯罪・性暴力対策の「集中強化期間」」です

◆性暴力の現状

令和2年度、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターへの相談件数は全国で5万件を超え、前年度から約1.2倍に増加、特に下半期は約1.3倍に増加しました。

女性の14人に1人は「無理やりに性交等をされた被害経験」など同意のない性被害に遭っています。また、被害を受けた女性の6割はどこにも相談していないのが現状です。加害者との関係性については、女性では「交際相手・元交際相手」が約3割、「まったく知らない人」が約1割とされています。被害の状況として「何もしないとだまされた」「脅された」のほかに、被害者が泣く・叫ぶ・説得するなど抵抗を示しても被害に遭い、中には身体的暴力を振るわれた被害者もいます。そして、ニュース等でも報道されるように、被害者は大人だけではなく、子どもにも危険性があり、親族や学校の教員など知っている人から性被害を受けることもあります。

被害者は女性だけではありません

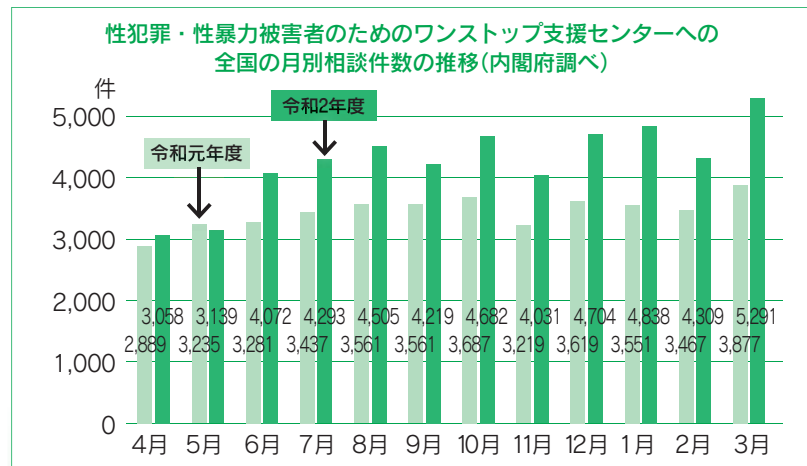
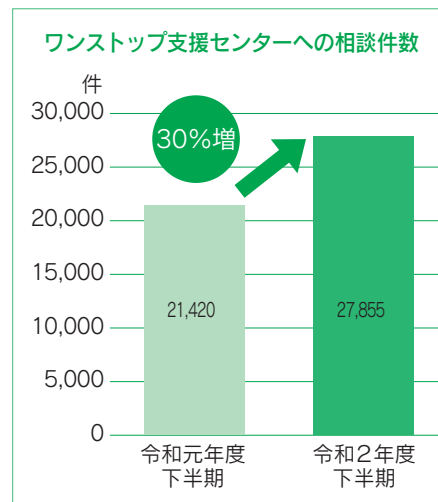
性暴力の被害者は女性だけではなく、男性も被害に遭うことがあります。

男性が性被害に遭う年齢は、子どものころが多く、10代、20代で多い状況です。また約7割の被害者が「恥ずかしくて誰にも言えなかった」「相談しても無駄だと思ったから」「男性の被害を誰も信じないと思ったから」という理由で、誰にも相談していないのが現状です。

◆もし、性被害に遭ってしまったら…

もし、自分が性暴力の被害に遭ってしまったときは、頭が真っ白になり、何も考えられず、誰にも相談できないかもしれません。実際に、誰にも相談していない被害者も多く、何年もそのつらさや苦しみを抱えながら生活している人もいます。どんな状況でも、被害者は決して悪くはありません。もし、悩み、困っていたら、まずは身近な人につらい気持ちや、苦しかった気持ちを話してみてください。また、第三者だからこそ話しやすい場合もありますので専門の相談機関も利用してください。

もし、大切な人から「被害に遭った」と相談を受けたら、被害者の安全を確保したうえで、話を聴いてください。気持ちを聴き、そのまま受け止めてください。被害者の話を聴くことが最大の支援となり、被害者を助ける力となります。



注:相談件数は、電話、面接、メール、SNSによる相談の合計

◆DV相談機関案内

■性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター #8891(はやくワンストップ) キュアタイム
■Curetime 内閣府によるチャット相談(https://curetime.jp/)

■最寄りの警察署(飯能警察署生活安全課 TEL972-0110)
■飯能市配偶者暴力相談支援センター TEL978-5085
■DV相談+ TEL0120-279-889 プラス